木々の会　２０２３年度活動計画

Ⅰ　基本方針　　～「コロナ後」の社会づくりに向けて～

３年余にわたり社会を覆ってきたコロナ禍を通じて、様々な問題が浮き彫りになりました。中でも感染者に対する偏見差別が深刻な影を落としたことを忘れることはできません。人々の不安感情とあいまって、その矛先は感染者のみならず、医療関係者にも向けられました。

日本では「感染はその人の責任」と考える人が諸外国に比べ非常に多いと言われ、この責任のとらえ方が大きく影響しているとも考えられます。

当時、アメリカ心理学会は『新型コロナウイルスに関わる偏見や差別に立ち向かう』と題した声明（訳：日本心理学会）を出す中で、「私たちにできること」として、「『事実』を広めること」「感染経験者の声を広めること」などを挙げています。

その後、コロナ感染者が多数になる中で偏見差別の圧力は緩和したかに見えますが、今後同様のことが起きる可能性は十分にあります。これは木々の会の基本テーマにそのまま重なります。

‘木々の会だより 73 号’巻頭で、むくどりの家メンバーのＴ．Ａ．さんはこう述べています。

「様々な立場にある人が、お互いに理解を深めていける世の中になってほしいです。それにはマイノリティについて学ぶ機会、マイノリティと交流する機会が必要です・・（中略）・・精神障害者がどのように日々を過ごしているのか知るために、精神病院、精神科デイケア、作業所等に来てほしいです」

来年は木々の会発足 30 周年を迎えます。内外ともに課題山積ですが、できること・すべきことは意外にシンプルかもしれません。会がモットーとしてきた「地域で共に」を実現するには何が必要か。様々な場面で話し合い、共通認識をつくっていきましょう。

本年度は下記のことに力を入れて取り組みます。

① 新型コロナ状況を踏まえつつ、集いの場やレクリェーション等の企画も含めた日常活動を再構築していく
② 新グループホームを開設し、２カ所のホーム及び地域活動支援センターも含めた連携により、〈地域で支える〉力を高めていく
③ 大事な存在である〈パートナー〉の今後を、研修会の開催、暮らしにかかわる活動の試み等を通じて模索する
④ 法人の活動と運営を支える軸となる事務局態勢を整備する